

子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業 2次採択団体一覧表 〈事業概要〉

採択団体…34団体 〈事業1〉…1団体 〈事業2〉…24団体 〈事業3〉…9団体

No	事業	団体名・事業名	校種	事業概要
1-7	1	福島県立光南高等学校 チア・応援団～被災者・避難者応援プログラム～	高	矢吹町主催のフロンティアまつりに出演する本校チア・応援団部の発表に、矢吹町在住の被災者や避難者を招き、被災者・避難者、本校生徒、矢吹町民三者の交流を深める。
2-29	2	福島県立好間高等学校フラダンス部後援会 愛知県刈谷市との復興交流事業(刈谷わんさか祭への参加)	高	愛知県市原稲荷神社の宮司小嶋今興氏が、いわき市内の慰霊祭でフラダンス演舞をしていた本校フラダンス部(当時愛好会)を観て感銘を受けたことをきっかけに、平成27年5月に市原稲荷神社に本校フラダンス部を招待していただいた。平成27年に招待された感謝の気持ちといわき市(福島県)の復興過程を伝えたい。また、生徒達自らが感謝の気持ちを届けに行きたいという強い希望があった。 今回は当時1年生だった生徒が3年生となり、生徒たちの2年間の成長の様子を観ていただくと共に、福島県といわき市の復興過程を理解していただく機会とする。 また、島国である日本の防災意識を更に高める契機とし、未来を担う本校高校生が、愛知県刈谷市を訪問することで、今後のいわき市の復興を更に加速する契機とする。
2-30	2	棚倉町立棚倉中学校 神奈川県(鎌倉)IN 棚倉町の頑張り、素晴らしい発信事業	中	(1)修学旅行の自主研修を活用し、震災からこれまでの間、棚倉町が頑張ってきたこと及び素晴らしい伝統や文化等を、神奈川県鎌倉市において、自作パンフレット等によりPRする。 (2)本発信事業のPR体験が、棚倉町教育委員会が推進するキャリア教育における基礎的・汎用的能力育成の機会ととらえ、将来の福島県を担う郷土愛に満ちた生徒を育成する。
2-31	2	NPO 法人いわき鳴き砂を守る会 子どもたちの声が響き渡る砂浜を取り戻そう	小中高	鳴き砂の太平洋側南限であるいわき海岸の砂浜は、東日本大震災及び原発事故により、地盤沈下、放射能汚染など大きな被害を受けた。その後、汚染が減少したことで、海水浴場の一部が再開されたが、来客数は大きく低減したままになっている。その原因の一つに、保護者が海水浴場の放射能汚染を心配し、子どもたちが海岸に来ないこともある。いわき鳴き砂を守る会では、以前より、鳴き砂及び放射能汚染状況調査を継続して行い、いわき駅前や海岸でのイベント会場でその結果を展示し、海岸が危険との風評払拭を行っている。砂遊びが子どもたちにとって単なる遊びだけでなく、創造性や協調性の育成に繋がることはよく知られている。本活動により、風評を払拭し、いわき海岸の砂浜に子どもがあふれる本来の賑やかさを取り戻したいと考えている。
2-32	2	特定非営利活動法人アイカラー福島 「あがらっしゃい！」ふくしまの美味しい発信	小	国内第3位の大きさを誇る福島県は、山の幸と海の幸に恵まれた素晴らしい地域である。福島県の果物は全国的にも有名で、くだもの王国福島の名を全国に知らしめてきた。しかし、東日本大震災による原発事故で多くの放射線が福島県に降り注ぎ、一時は県外産を買い求める姿が多く見られた。現在は徹底した線量検査により他の県の産物と変わらないもしくはそれ以上の美味しく安心・安全な農産物となっているにもかかわらず、未だ「福島産」というだけで敬遠されている現状は払拭できない。福島県の未来を担う子ども達が自ら福島県のソーシャルストックを認識し、食のありがたさを知り、県外に発信することで福島県の風評被害払拭の一助になることを目的とする。
2-33	2	福島県立船引高等学校PTA 地域復興～船高アクティブリーダー育成プロジェクト～	高	田村市都路町は東京電力福島第一原子力発電所事故により避難地域となり、現在避難解除となっている。船引高校は田村市にある唯一の高校であり、地域に貢献できる生徒の育成を目標としている。田村市都路町の復興に関するこれまでの歩み、現状、未来への展望について、船引高校生が、現地の方々との交流を通し、高校生として、地域のために何ができるか、何をすべきかを考え、他県の高校生に福島県の高校生として、復興の歩み、現状、展望、目標を伝え、話し合うことでさらに考えを深める。さらに、それをWebでの発信、校内発表などを通して、復興に邁進している地域に貢献し、復興に必要な資質・能力を身につけることを目的とする。
2-34	2	飯舘村立飯舘中学校 ふるさとで生きる人に学び、飯舘村のよさを発信しよう	中	ふるさとに生きる人に学び、ともに飯舘村の未来を考える。その中で未来のために、今、自分たちに何ができるのかを考え全国に発信する。全校生徒が、ドラマ班、ディベート班、もの作り班に分かれ年間を通して活動する。ドラマ班では、ドキュメンタリードラマを製作しDVD化する。ディベート班では、生徒の立場で村の公共政策に関する提言を作成し、地域おこしという観点から他県の学校との交流の中で発表する。もの作り班では、道の駅を訪れる人たちに飯舘村のよさを知ってもらうための企画を行う。また、田植え踊りの伝承を全校生徒で行い、地域の伝統を全国に発信する。

2-35	2	福島県立福島高等学校 P T A 福島高校台湾研修旅行	高	<p>原発事故以降、福島高校スーパーサイエンス部は放射線に関する課題研究に取り組んできた。一方でフランスやイギリスの高校生との相互交流活動にも力を入れ、交流の場では放射線に関する研究成果をもとに、福島の現状も伝えてきた。</p> <p>今回、福島高校の2年生が台湾忠明高級中学を訪問し学校交流を実施するにあたり、これらのスーパーサイエンスハイスクールとしての取り組みの成果を踏まえ、学校交流の中で福島の現状を紹介する活動に取り組む。交流活動を通して、福島はもちろん台湾生徒の福島への理解を一層深めるとともに、福島に対する風評払拭の一助とする。</p>
2-36	2	福島大学附属小学校 ふるさと福島大好き発信プロジェクト	小	<p>故郷福島に誇りと愛着をもつ子どもを育成するために、3～5学年において総合的な学習の時間を中心とした、ダイナミックな単元構想の基、ひと・もの・ことと豊かにかかわる体験活動を通して、地域と共に、福島のよさや自慢を発信したり、自分たちにできることを実践したりしていこうとする子どもを育成することを目的とする。</p> <p>信夫山は福島市民にとって憩いの場であり、大切な文化財である。震災後子どもの活動を制限せざるを得ない状況が続いていたが除染が進んできている。</p> <p>3学年では、ふるさとの身近な山である、信夫山を探検することで見てきた信夫山のよさを発信したり、信夫山での活動を活性化させるために調べる学習を行ったりすることで、ふるさと福島に生きる一員としてできることを実践していく。</p> <p>4学年では、福島や会津地方の農作物について、農家の方とかかわりながら、調べたり実際に仕事を体験したりを通して、福島の農作物へ愛着や親しみをもたせることができるような活動を展開していく。さらに、活動を通して思いを高めた、福島の自慢を県内外に発信していく。</p> <p>5学年では、福島県南地方の農業に携わるひととかかわったり、作業を体験したりを通して、福島の「ものづくり」における思いを学ぶ。さらに、全国の消費者に届ける心意気や情報発信の方法についても学び、自らも農作物の宣伝マンとなり様々な方法で情報を発信していくなど、地域のひとと共に自分にできることを実践していく。</p>
2-37	2	福島大学附属小学校 世界に発信！わたしたちの福島プロジェクト	小	<p>子どもたちは、福島に外国人観光客が少ないことに疑問や、課題意識をもっている。修学旅行で訪れる浅草において「なぜ外国人観光客が多く訪れるのか」「福島との違いは何か」について、実際に商店街の方の仕事を体験させていただくことを通して調査する。また、福島をよりよくするために、福島の未来について、これまでお世話になった地域の方と語り合う会議「未来会議」を行う。この「未来会議」を通して、福島のよさや故郷への思いを高め、福島のよさを地域の方に発信する活動を行う。</p> <p>さらに、2年間学んできた外国語を生かして、福島のよさ（good point）を留学生や外国のひとへ向けて発信することで、福島の一員として福島をPRし、外国人観光客の増加、や本県のイメージアップに寄与することができるようにする。</p>
2-38	2	福島大学附属中学校 ふくしま復興応援大使事業	中	<p>3泊4日の修学旅行の中で福島県の復興を発信する。</p> <p>(1)現地中学校と交流活動をし、復興を発信する。</p> <p>(2)民泊先で各自復興について発信する。</p>
2-39	2	特定非営利活動法人福島就労支援センター わくわくグローバルフレンド	小	<p>小学生を対象として海外の小学生とテレビ電話やビデオレター、制作物の交換などを通して国際交流を行い、日本・福島を子ども素直な感覚で発信・受信し、異文化を理解することで未来の福島を支える子どもたちの可能性を広げる。</p>
2-41	2	会津高等学校父母と教師の会 目指せ！一歩前に踏み出す“AIZU高校生”	高	<p>復興と未来を担うグローバルリーダーとなるため、ふくしまの現状を踏まえた課題探究活動に取り組み、復興のあり方をグローバルな視点から考察し、ふくしまの未来につながる提案を行う。そのために、浜通りを中心とする被災地へのフィールドワークや他県の高校生との交流、本校OBが所属する研究機関等への訪問などの体験的な活動を実施する。</p>
2-42	2	福島県立平工業高等学校ラグビー部 復興から、輝く未来へ 力強く、たくましく、夢をつかむ力をつかもう！ ☆僕たち、がんばってます！！☆	高	<p>東日本大震災及び原子力災害を経験しつつも、元気で明るく生活している福島の高校生の現状を発信するために、同じ被災県である岩手県の高校生と連携し、被災地の宮城県加美町において復興に関する交流会を開催する。交流会には東京都の高校にも参加してもらい、波及効果や発信規模の拡大を図る。また、震災後の福島県、いわき市の現状を伝えるだけでなく、県産品の安全性についても取り上げ風評被害の払拭につなげる。</p> <p>県外の高校生と東日本大震災、原子力災害について語り合うことで、県外の高校生が本県についてどのように考えているのかを知り、本県に居住していることに自信を持つきっかけとする。</p>
2-43	2	息吹公演事務局 息吹福島の元気発信事業 2018	小中高	<p>沖縄で開催される「息吹～南山義民喜四郎伝」へ出演し福島の元気を発信する。舞台は今から297年前会津南山御蔵入領で起こった一揆の物語。南会津を中心とする会津南山領の歴史を繋ぐと共に、福島に住む児童生徒として現状を伝え、福島の元気を発信する。また沖縄滞在中は現代版組踊推進協議会に加盟する「あまわり浪漫の会」「那覇青少年舞台プログラム」「チーム鬼鷲」「北山ていーだの会」等と交流し、福島の今を伝える。</p>
2-44	2	福島県立耶麻農業高等学校同窓会 山都蕎麦で絆をつなぐ～高校生による手打ちそば実演・アピール事業	高	<p>首都圏において福島県立耶麻農業高校の生徒がそば打ちの実演を行い、試食を勧めることを通じて、福島県の復興状況をアピールするとともに、生徒のモチベーションアップ及び「そばの里山都」のPRを図る。</p>

2-45	2	ベテランママの会 小・中・高校生向け放射能知識テスト	高	本事業では、高校生が中心となり「放射線知識テスト」を開発し、小中高校生向けにテストを実施する。これを通じて放射能の正しい知識を身に付け不安と向き合い、風評に負けない若者を育成する。
2-46	2	福島県立新地高等学校生徒会 高校生の方で地域の復興を支えるプロジェクト	高	(1)津波被害のあった新地町で、高校生の立場で震災を風化させないことを目的とした追悼祈念樹「おもひの木」プロジェクトの月命日でのイベントの企画・実施し防災教育へとつなげる。 (2)新地町で震災後に毎年開催されている復興イベント「やるしかねえべ祭」に参加して、復興支援を目的とした地域産品の紹介ブースの企画・運営と高校生によるボランティア活動の様子を情報発信する。 (3)その他、地域内での復興イベントへのボランティア参加と、復興の状況と風評払拭の取り組みについて、HP・SNS、マスメディア等を活用し、情報発信を実施する。
2-47	2	特定非営利活動法人劇団スターキャスト 被災地子供たちによるふくしま復興ミュージカル創作事業	小中高	県内の小中高生が、芸能界で活躍する現役の脚本演出家、振付師、歌唱指導家のアドバイスを受けながら、ミュージカル創作や全国公演を展開する。「ふくしまのアピール」をし創造する力を育み、公演成功に向かって互い協力し合い挑戦し続け、「復興するふくしま」を公演を通して、全国へ情報発信することで風評払拭、「福島ロス」「震災ロス」を予防する。
2-48	2	一般社団法人 Bridge for Fukushima 福島・中国高校生社会課題解決企画「あいでのみ」	高	福島の復興課題や社会課題に関心がある高校生と、日本ならびに福島の現状に関心を持つ中国の高校生が、互いの地域が抱える課題を発見・分析し、自分たちが取りうる社会課題解決の手段を探る過程を発信する。それにより「社会のために若い世代が主体的に努力する新たな福島」を伝え、福島に対する負のイメージ（原発事故・変化に乏しい・若者がいない）を払拭する事業である。具体的には、福島県内・中国上海市内の2か所で交流事業、福島県沿岸部等の震災被害を受けた地域におけるフィールドワーク、日中交流実施後に両国で成果報告会を実施する。
2-49	2	奥会津かねやま「姫ます元気印」実行委員会 奥会津かねやま特産品開発事業	高	金山町には、ヒメマスや奥会津金山赤カボチャ、エゴマ、マコモタケ、山菜などの特色ある農林水産物がある。特にヒメマスは、福島県の要請による採捕自粛が続いていたが、平成29年3月に要請が解除された。しかし、長引く風評や刺し網漁師の廃業など、ヒメマスを巡る環境は厳しい状況にあり、新たな活用に大きな課題を抱えている。このため、福島県立川口高等学校家庭クラブとの連携を図り、ヒメマスを核とした新たな商品開発を行い、首都圏等の方々に対して広くPRを図るとともに、子どものアイディアを風評の払拭につなげたい。
2-51	2	福島県立若松商業高等学校父母と教師の会 「一人ひとりが復興大使」～修学旅行を活用した福島県産品のPR活動	高	10月31日から11月3日まで実施する本校2学年の沖縄への修学旅行のなかで、訪問先で沖縄の方々や交流し、風評被害のなど福島の現状について広報し、福島県産品の安全性と品質の高さをPRするとともにその利用拡大を訴える。 具体的には、班別自主研修の際に訪れる飲食店や土産物店で、班ごとに生徒が作成した宣伝物等を利用して交流したい。その際、できれば県内の高校生が企画・開発した福島県産品なども持参して、効果を高めたいと考えている。
2-52	2	福島市立北信中学校 第1学年 校外学習 ～ふくしま・北信中の元気発信～	中	山形県米沢市内の校外学習における各体験学習施設で、ふくしまの復興状況や本校での学習の様子（校庭での活動やプールでの授業など）を、次の方法でアピールする。 (1)体験学習施設の方々や交流を図る。 (2)ふくしまの復興状況や本校の様子を、パンフレットやポスターにまとめてアピールする。 (3)成果を全校集会で発表するとともに、学校文化祭や「学校へ行こう週間」を中心に廊下掲示をして、保護者や地域の方々に伝える。
2-53	2	特定非営利活動法人アースウォーカーズ 福島を伝え、再生可能エネルギーを学ぶ 2017 福島・ドイツ高校生交流プロジェクト	高	(1)福島の高校生が東日本大震災から6年間の福島の状況をドイツや東京で報告する。 (2)ドイツ各地の再生可能エネルギーを訪問し学ぶ。 (3)ドイツの高校を訪問し現地の高校生と東日本大震災やエネルギーについて交流する。
2-54	2	一般社団法人葛力創造舎 高校生による原発避難地域のふるさとの記憶発信のための冊子制作およびツアー造成事業	高	若者が極端に少なくなった原発被災地域において、地域のふるさとの記憶を高校生が掘りおこし、冊子作成とツアー造成を行い次世代につないでいく。
3-17	3	特定非営利活動法人子育て支援 コミュニティチママン ふくしまっこの元気と感謝を県内のひろばから発信しよう！プロジェクト	幼	東日本大震災時、全国の子育てひろばなどの職員や利用者のみなさまから多くの支援金をいただき、県内のひろばで当時乳幼児だったお子さんの様々な支援活動に活用された。今年、その支援金をよびかけていただいた子育てひろば全国協議会の研修会が厚生労働省委託により郡山で開催され、全国から多くのひろばや支援センターなどの職員の方々が集まる。その会場となる施設内で別会場を設け、震災時から現在に至るまでの子ども達の活動や成長の様子などを映したパネル展を開く。また、その当時のひろば利用者だったお子さんから現在利用中のお子さんたちまでのみなさんに呼びかけ、夏休み中にワークショップを開催して福島をイメージしたイラストを描き、当日の来場者に感謝の気持ちと現在の気持ちをこめたメッセージを入れ配布する。



3-18	3	復活！高倉人形プロジェクト実行委員会 高倉人形・人形浄瑠璃体験ワークショップ	小中	東日本大震災の津波や原発事故により福島県は多くの貴重な歴史的遺産を失った経験から、日和田町子どもたちが自分たちの住む地域の歴史を改めて見直す機運が高まった。総合学習における日和田町独自の庶民文化であった人形浄瑠璃（高倉人形）の学習を通して、実際に動かしてみたいとの声があがり、「高倉人形・人形浄瑠璃体験ワークショップ」を実施することになった。最終回には発表会を開催し、参加した子どもたちに本事業に参加し発表できたという達成感を感じていただき、これから世界に出て活躍する可能性のある子どもたちが郷土への誇りを持つようになることを希望する。また、広く県内外に活動の様子を発信することにより、わが町、ひいては福島県の伝統文化のすばらしさをアピールし、子どもたちを中心に地域住民が一つになって「高倉人形」を復活し、福島県の復興の象徴の一つとしたい。
3-19	3	Blue Spica 福島から感謝を込め、岡山の仲間へ元気を発信	中高	2011年の「東日本大震災」以降、変わらぬ応援をいただいている岡山の皆様へ「マーチング・イン・オカヤマ」でのパフォーマンスを披露、これまでの応援への感謝を込めて音楽を通して元気と勇気を発信、楽しく交流を図る。その活動を通して福島の今を伝え、改めてふるさと福島を見つめる心を醸成する。
3-20	3	福島県立小高産業技術高等学校吹奏楽部 小高産業技術高校が演奏と販売会を通じて熊本を「笑顔」と「元気」にする。～今までたくさんの支援をありがとう、今度は私たちが熊本で恩返し～	高	復興支援で熊本からのボランティアの方々の演奏会で元気づけられたことや2011年10月から開始したIPPO IPPO NIPPON プロジェクト東北支援の終了式典で演奏いただいた熊本県立熊本工業高校の生徒に大変元気づけられ。今度は、私たちが今年の熊本地震で被災した熊本県の皆さまに演奏を通じて恩返しをする。 私達が熊本を訪問し、熊本工業高校等の熊本の高校生との交流を通じ、熊本の復興の現状を実際に見て、感じて、地域の復興支援のできる人材の育成に繋げる。 熊本県益城町にある県下最大規模の仮設住宅を訪問し、ミニコンサートの実施や当校や南相馬市の高校生が開発し、販売している「だいこんかりんとう」や「かぼちゃのあしあと」等の商品を販売することで若い高校生も頑張っている福島復興支援を行っていることを熊本に広く発信する。
3-21	3	特定非営利活動法人ふくしま国際音楽祭 音楽を通して子供たちと共につなぐ福島	小中	福島市内の小・中学校の管弦学部（蓬萊中学校ほか5校）と当法人所属の「ふくしま・フィル・ハーモニー復興祈念オーケストラ」（プロ集団）の団員が音楽の楽しさと音楽を通して地域との接点と交流を一緒に育む。そして、震災を体験した子供たちだからこそ、レベルアップだけではなく音楽を通して福島県民を励まし感受性を表現できるようにする。そして、子供から大人までの感動を分かち合い福島発の新しいハーモニーを生かし音楽好きなモチベーションと表現方法を育てる。 東京にて福島で教わったことを発表する。そして福島から発信する。子供たちと「ふくしま・フィル」が出演する。
3-22	3	NPO 法人福島青年管弦楽団 福島青年管弦楽団「福島市・南相馬市・バンコク音楽研修2017」	中高	主に県北地区の中高生で結成するオーケストラ「福島青年管弦楽団」が、福島市・南相馬市・バンコクの3都市において大規模な音楽交流を行う。 津波被災地の南相馬市では地元の中高生吹奏楽部との音楽交流、バンコクではバンコクの青年音楽家と演奏交流や、難しい環境に生きるタイの子どもたちのために演奏する。また、タイ文化を学ぶプログラムも取り入れる。
3-23	3	ITを用いた高校生復興課題解決事業実施協議会 ITを用いた高校生復興課題解決事業	高	本事業は、高校生たちがプログラミングを学びITによる課題解決力を身につけながら、長引く福島県内の復興課題に自らITをもって挑むことを目的とした事業である。震災後6年が経過した現在でも福島県内には多くの復興課題が山積しており、①被災した高校生がプログラミングを学び、②ITによって自ら解決できる復興課題を見つけ出し、③その解決策のソフトを作る、一連のカリキュラムを開発し実践する。
3-24	3	会津若松市立一箕中学校 復興応援コンサート	中	会津若松市立一箕中学校のプラスバンド部、合唱部が東京都内で復興支援コンサートを開き、関東地域に避難した方々に演奏と応援メッセージを届けるとともに、震災から6年経った現在の福島県の状況を発信する。
3-26	3	福島県高等学校文化連盟 福島県高等学校総合文化祭 活動優秀校公演 ～ふくしまをつなぐ2017～	高	平成27年度より、県民の皆さまのご支援に対する還元と文化芸術活動で躍動する本県高校生の姿を通して、元気なふくしまをアピールし高校生の元気を県民にむけて発信することを目的とした「福島県高等学校総合文化祭 活動優秀校公演」を開催しており、今年度は県南支部で第3回目の公演を行う。 今年度公演では、開催支部となる県南支部生徒実行委員が、東日本大震災により甚大な被災を受けた相双地区の現状を視察するとともに、相双地区高等学校の生徒との交流をとおして、生徒実行委員が「復興とこれからの福島」をテーマとしたメッセージを公演で発表する。また、生徒実行委員によって新聞を作成し県内外に発送する。さらに、公演ステージでは、震災以降、演奏を通して地域の復興支援活動が続いている原町高校箏曲部による演奏を予定しており、復興に向かう相双地区の高校生の姿を来場者に届ける。